TOPICS

新興・再興感染症研究拠点形成プログラム（文部科学省委託事業）への参画

文部科学省では、近年、国際的に相次いで発生している重症急性呼吸器症候群（SARS）や高病原性鳥インフルエンザ等、また依然として感染者の多いエイズ、マラリヤ、結核、肝炎ウイルスなどの新興・再興感染症に対する社会的不安が増大している状況から、国全体として感染症対策を支える基礎研究を集中的・継続的に進め、人材の育成・知見の集積等を図ることを目的とした研究基盤整備のため、平成17年度より委託事業『社会のニーズを踏まえたライフサイエンス分野の研究開発－新興・再興感染症研究拠点形成プログラム－』を開始することとした。

動物衛生研究所（研究代表者：感染病研究部長）では、本プログラムに本年度から５年計画で大阪大学と連携して参画することとなり、獣医学と医学の連携を図りながら、タイに海外研究拠点を設置して「東南アジアにおける鳥インフルエンザ等人畜共通感染症の疫学調査研究」を実施することとなった。この研究の目的及び計画は次のとおりである。

（研究の目的）

本研究課題について、国内では大阪大学微生物学研究所を中心とした感染症研究グループと動物衛生研究所が、また国外ではタイ国立予防衛生研究所（NIH）とタイ国立動物衛生・研究所（NIAH ）がそれぞれが持つ医学および獣医学における知見とネットワークを有機的に連携し、東南アジア地域における人畜共通感染症の病原体を幅広く、且つ柔軟に束ね、それらの生態学的特性の解明と防除技術の確立を総合的に研究するとともに本研究の実施を通じて感染症分野の研究人材の育成を目的とする。

（研究計画）

動物衛生研究所では、まず我が国および東南アジア地域で焦眉の急となっている鳥インフルエンザの課題に焦点を当て、その効果的防圧に資する研究および体制を構築する。次いで得られた体制をもとに順次裾野を拡げ、東南アジア地域での高病原性鳥インフルエンザ感染症の防圧と我が国への侵入リスクの低減化を図るため、動物衛生研究所とタイを中心とした獣医学研究所が共同で、それぞれの国で、汚染の実態の把握、汚染経路の推定を行い、効果的な汚染防止対策を確立する。

本プログラムには当初、動物衛生研究所が単独でBSE、ロタウイルス、アルボウイルス感染症を含め課題提案したものであったが、採択の過程で大阪大学微生物学研究所と連携すること、鳥インフルエンザを中心として課題を組み直すこととなった。本課題の遂行は勿論であるが、今後は新たにタイに形成される研究拠点を足掛かりとした人畜共通感染症研究のさらなる進展が期待される。

なお、現在、動物衛生研究所において本プログラム研究課題を実施するため、大阪大学及びタイ国並びに参画機関と協議を重ね、農業・生物系特定産業技術研究機構本部や農林水産技術会議事務局の協力を得て準備を進めている段階である。

本研究の実施に向け、関係各位のさらなる御協力をお願い申し上げる。

（研究企画科長）